2022 年 4 月 1 日

2022 年度　附属中学校　学校経営計画

Ⅰ.大学の第 4 期中期目標・中期計画（附属学校について）2022（R4）～2027（R9）年度

（Ａ）【附属学校園の取組】

１．それぞれの年齢段階に応じた特色ある教育モデルに関する研究・実践を行うとともに、社会貢献及び学校教育水準の高度化等に資するため、その成果を社会に発信する。

（Ⅰ－４　教育研究の質の向上に関する事項【K19】）

２．大学と附属学校園が緊密に連携する「オールお茶の水」体制のもとで、連携を推進するための体制や教育研究環境の整備を図りながら研究や取組を協働して進め、学生の実習や教員の研修を行うとともに、先導的な教育モデルや教材等の開発及びそれらの成果の発信を進める。

（Ⅰ－４　教育研究の質の向上に関する事項【K19】）

（Ｂ）【その他、大学の各機関と連携した取組】

１．大学入学前からの総合知育成モデルの探究において大学と協働する。

※教養知と専門知に実践知を結びつけた「総合知」　　((前文)大学の基本的な目標３）

２．コンピテンシー育成を柱とする幼児期から大学卒業までの段階的教育モデルの開発・実践・発信においてコンピテンシー育成開発研究所と協働する。

（Ⅰ－２　教育研究の質の向上に関する事項【K5】）

３．理系人材育成プログラムの開発において理系女性育成啓発研究所と連携する。

（Ⅰ－２　教育研究の質の向上に関する事項【K5】）

４．今後発生が想定される自然災害に備え、大学とともにお茶の水女子大学防災計画の適切な運用を行う。具体的には、教職員に対して、防災教育・訓練などを毎年度実施すると共に、実施結果をもとに防災関係マニュアルの点検を行っていく。　　(X-4 安全管理に関する計画)

Ⅱ．附属中学校の教育目標

自主自律の精神を持ち，**広い視野**に立って行動する生徒を育成する。

＜教育の３つの柱＞

・「あたたかく深い人間力」の育成

・「グローバルな視座」の育成

・「科学的・論理的思考力」の育成

Ⅲ．附属中学校カリキュラムポリシー

１．自主自律の精神を持ち，広い視野に立って判断・行動し，習得した知識・技能を活用しながら社会の中で他者と協働し，自分らしく生きる生徒を育成する。

２．カリキュラム研究，帰国生徒教育研究，新しい教育課題に対する実践的な研究の成果を生かし，探究する楽しさを見出し，変動する社会の中で主体的に生きる力を育成する教育課程を編成する。

Ⅳ．附属中学校の学校経営方針

１．使命（ミッション）　　※中学 3 年間で生徒たちを大きく成長させること

①前期中等普通教育を行い、生徒の自己実現を図り，適切な進路を選択し進めるようにする。

②国立大学の教育研究機関としての附属学校の役割を果たして、学部・研究科等と連携し、実践的な実習・研修の場を提供するとともに、先導的な教育モデルや教材等を開発し、その成果を展開することで学校教育の水準の向上をめざす。

③大学との連携のもと,教育実習生やインターンシップの受け入れや教員 FD(Faculty Development：大学教員団の資質開発）を行うなど、附属学校としての十分な機能を果たす。

④共同研究の場を提供し，研究の成果を広く内外に公開・発信して社会貢献を果たす。

２．展望（ビジョン）

①教育目標の実現を図り，「多様なステージで活躍できる行動力のある人間」「多様な人々と問題意識や課題を共有できる懐の深い人間」を育成する。

②大学と附属校園が密接に連携する「オールお茶の水」体制のもと、新たに発足した大学の研究所等とも連携しながら、社会を革新する人間の育成めざした先進的、先導的な教育モデルや教材等の開発研究を行い、公教育に還元する。

③大学の教育実習・インターンシップや教科教育法の授業等を積極的に担うことで、これからの教育を担う意欲的で実践力のある高度な教育力をもった教員の養成に協力する。

④国内外の教員交流や本校教員の研修講師としての派遣，学校視察や参観等の受け入れや公開研究

協議会等の活動を通して，教師の研究力・指導力の向上、学校教育水準の高度化に寄与する社会貢献に努める。

３．目標（ゴール）　（※特に昨年度からの２年間）

①教育課程：

・教育目標の実現をめざした教育活動を立案、実施し、すべての生徒の多様な学びを促進するとともに、特に**生徒の自治能力**を育成する。

・学習指導要領に基づいた評価方法等も活用しながら、生徒一人一台端末をはじめとする校内の ICT 環境等を生かして、**生徒の主体的な学び**を一層支える。

・本校のこれまでの研究実績を土台にして、これからの社会を革新する教育課題解決に向けた新たな研究を創出すべく、**開発研究**に取り組む。

②学校運営：

・人的組織、経費運営、施設・設備等を適切に整備しながら、柔軟で機動性に富んだ学校環境を構築する。

・安全・安心な教育環境を整備するとともに、開かれた学校に向けての取り組みを推進する。

・中学校における教育活動の推進に向けて、大学の支援や相談助言が一層得られるように、大学と密接に連携した学校運営体制を確立する。

③大学との連携：

・大学や他校園と連携して、教育研究を促進する。

・附属学校として，大学に新たに発足したコンピテンシー育成開発研究所等と連携した種々の教育研究活動に積極的に寄与しながら、本校の教育研究・実践を一層充実させる。

④社会貢献：

・国内外の教育関係者等との交流、実践研究の場を提供するとともに、また本校研究成果を新たな形式も取り入れながら積極的に内外へ公開、発信する。

４．2022 年度の経営計画（マネジメント・プラン）

(1)学校経営重点課題

・本校の様々な強みを生かして、またこれまでの様々な実践経験を踏まえて、「予測困難で不確実、複雑で曖昧」な時代においても本校ならではの教育活動を推進、向上させる。

※本校の強み

・多種多様な力、可能性を有する個性的な生徒たち

・きめ細やかで、一人ひとりを大切にする学習・生活指導に優れた魅力的な教師集団

・大学や他の附属校園との連携、外部の専門機関とのつながり

・保護者、同窓会や教育後援会等の人的、財政的支援

①教育課程

○各教科の授業、自主研究や総合的な学習の時間等の教育活動を通じて、生徒一人ひとりの学びの実態を見極めるとともに、協働的な学びの場をつくり、学習評価を活用しながら、学習意欲の向上や基礎学力の定着化に結びつける。

○生徒会活動や学校行事等を行う上で、その時の状況でできる最善のやり方を生徒達自身に考えさせながら主体的な活動をうながし、生徒の自治能力の育成を計画的に図る。

○生徒一人ひとりに寄り添った進路指導を行い、各生徒が自分の進路を選択し進んでいけるよう、「キャリアパスポート」等も効果的に活用していく。

○これからの高度情報社会に向けて本校の ICT 活用教育を一層推進するためにも、デジタル・シチズンシップ教育を積極的に導入する。

○教科指導法・指導内容等で先進的な実践研究を継続的に進めるとともに、これからの社会を革新する教育課題に取り組むべく、次期研究開発学校の指定に向けた研究主題を創出する。

②学校運営

○安全、安心な教育環境の実現に向けて、生徒達の成長につながる生徒指導を適切に行うとともに、大学や外部の専門機関、地域や警察等とも密接に連携し、教育相談等への組織的対応や人権教育の実践に取り組む。

○生徒指導・保健安全部や危機管理委員会を中心として、校内での避難訓練、防犯訓練や健康指導等を計画的に実施し、生徒達に防災、防犯、予防の知識を経験を通して身に付けさせるとともに、大学の組織や近隣地域（文京区）とも連携を図りながら、学校内外の安全な環境を構築する。

○多様性を認め合う（寛容さを育む）教育活動を推進する中で、生徒自身の意見等を積極的に

取り入れながら、校内の様々な環境を見直していく。（例として、制服等）
○各生徒の個性を認め、きめ細かい学習指導や生活指導ができるよう、教員同士が互いに連絡を取り合い情報交換したり、自身の研究力や指導力の向上のために互いに学び合ったりしながら、教員間のつながりを豊かにすることを日常的に一層心がける。
○様々な学校運営組織の有機的な結び付き、クラウド利用による資料等のペーパレス化、ネットワーク活用による事務の効率化や情報共有の利便化等を通して、教職員の「働きやすさ」につなげ、さらに生徒に関わる教育活動に還元できるように「働き方」に対する意識改革を促す。
○「未来構想検討委員会」を立ち上げ、魅力あるお茶中に向けて、生徒獲得や帰国入試のあり方等を含めて検討する。
○開かれた学校に向けての取組みとして、保護者や国内外の教育関係者等のニーズに応えられるような様々な情報発信の場や方法を、安全、安心面にも考慮しながら構築していく。
○保護者や同窓会（鏡影会），教育後援会（鏡水会）との協力関係を活かしながら，オールお茶中という全方位の教育体制を生かした教育を推進する。

③大学との連携
○附属学校本部における附属学校園の運営方針と協調しながら、人間発達教育科学研究所及び教育研究推進専門委員会等との連携はもとより、新たに発足したコンピテンシー育成開発研究所、理系女性育成啓発研究所、SDGｓ推進研究所等とも連携しながら、本校の教育研究・実践を一層充実させる。
○教科教育法等の大学の授業、教育実習，インターンシップ゜、キャリア副専攻等，種々の教育研究に対して大学との連携を図りながら、高度な教育力を持った教員を育成，輩出する。

④社会貢献
○大学と連携しながら、中学校段階における特色ある教育モデルに関する研究・実践を行い、その成果を「教材・論文データベース」等において広く公開する。
○国内外の教育関係者等の学校視察や参観,研修員の受け入れを可能な限り実施するとともに,公開研究協議会の開催や研究紀要等を通じて研究成果を積極的に内外へ公開、発信する。
○帰国生徒教育における実践的研究を継続的に進め、その成果を必要とする学校関係者、多種多様な生徒や保護者等に還元する。

(2)各校務分掌の重点目標
①経営企画部
○予算を計画的に使えるように、予算項目 と執行状況の確認が明確にできるように工夫する。また、担当者が効率的な会計処理が行える方法を考え、実行する。
○職員室の共有空間をきれいに整えるため、整理整頓を呼びかける。
○ANPIC 等を効率よく活用しながら、学校と家庭間の連絡を滞りなく行う。
○今後の経営企画の仕事運営の効率化のため、役割の明確化と周知をはかる。
②教務部
○スマートな教育課程：本校の教育課程が円滑に実行されるように支援していく。新学習指導要領の本格実施に対応した校内体制をつくる。キャリア教育・進路指導については進路指導委員会と、道徳教育については研究推進委員会と連携して取り組む。
○シンプルな校務執行：校務の効率化・機能化を図り、校務の適正な分担と負担均一化を基本とする。働き方改革とも連動し、誰にでも分かりやすく、シンプルで継続可能(sustainable)なシステムを考え、良いアイディアは積極的に活用する。教員が生徒と共に居る時間を減らすことのないように、無駄な事務作業を削減する。また、事務作業の外注化も目指す。作業の外注化を目指す。
○役立つ情報の提供：文科省、国研、東京都などからの情報の提示や、各種校務のマニュアルなどを整備し、必要なときに必要な情報が入手しやすくなるようにする。
③研究・帰国部
○研究に関わる情報収集と発信、共有を積極的に行い、学校研究を下支えする。【授業研究】
○生徒の探究スキルを育成するための指導法の研究及び支援を行う。【自主研究】
○特性を引き出し、伸ばす帰国生・国際理解教育を推進する。【帰国・国際理解】
○教員が学校内・外で学び、また成果を発信するための支援をする。【教員研修】

④生徒指導部

○落ち着いた学習環境を整え、個に寄り添った指導の充実を目指す。
○生徒主体の教育活動を展開しながら、活動内容の精選を進める。
○部活動の活性化を目的に指導方法や組織の見直しを継続する。
○安心・安全な学校づくりにむけて学校の危機管理対応について関係機関と連携をとりながら見直しを進める。

⑤広報情報部

「進取・迅速・創造」
○様々なメディアを活用し、イベントの企画や運営等、本校の魅力を伝える広報活動を推進する。
○校内の ICT 機器の運用・管理を行い、生徒、教員双方に有効な ICT 環境の更なる充実を図る。
○ICT においても自律を強化する教育活動の推進を図るとともに、ICT を活用した効果的な教育活動の推進、サポートを行う。

(3)各学年の教育目標

１年　学年目標：「継」

■重点目標: 出会う：つながりを創る・広げる

①自分の興味・関心に気づき、主体的に物事に挑戦する。
②自分を啓、互いに個性を認め合いながら新たなつながりをつくる。
③様々な人や物事と出会う中で多様性を理解し、つながりを広げる素地を培う。

２年　学年目標：「架（かける）」

■重点目標：「中心学年として,学校(生徒会組織)に橋や梯子を架ける。　　」

①個人として：自身の状況を捉えて目標を設定し、見通しをもって実行し、振り返って次に生かす。
②他者との関わり：上/下級生との関わりの中で、よりよい組織をつくる。
③社会との関わり：主に学年・学校の中で自分の役割を見つけ、果たす。

３年　学年目標：「こころ　～穏やかに、前向きに、つよくしなやかなこころで～ 」

■重点目標：「志す-こころざし高く、将来を見据える(目標に向かって持てる力を存分に発揮する)」—開花の時期

①経験を元に様々な場面で「自発的なリーダーシップ」を発揮する。
②社会に関心を持ち、その一員として活躍するための基礎を養う。
③自分にあった進路を切り拓く。